

第52回大会 参加クルーの皆さまへ（必ず確認を！）

1. はじめに

今年もエントリーして頂いた多数のクルーをはじめ観戦にこられた皆さまに安全対策と競技方法のポイントをご説明し、ご協力をお願いします。施設・器材・人員の不足をヤリクリして一生懸命運営いたしますので、不手際がありましたらご寛容のほどを。お気付きの点は遠慮なく実行委員にお尋ねください。

2. 安全を最優先

私たちは2001年9月の高校新人戦事故を教訓に安全優先を誓いました。水上および陸上の監視体制、緊急救護チームR E S T、高校生の救命衣義務付け、気象把握などにより万々に備えます。また、安全監視委員会が危険と判断した場合は、レースの中断、組み替え、中止など、プログラムを変更します。

3. 参加資格と救命衣・救命具

要項の通り「競漕に耐える者」（各団体責任者または保護者の管理と責任で判断）のみが参加する大会です。クルーは、出漕前に必ず配艇係でバウナンバー（レーンプレート）を受け取る。その際、舵手なし艇には係員が「全員泳げるか」を尋ねます。「泳げる」基準は、5分以上の立ち泳ぎ可能なこと。基準以下と自己判断した選手は、何らかの浮力補助ジャケット類を着用する。また、全ての高校生（および中学生以下）は水泳能力や種目にかかわらず、必ず救命衣・浮力補助ジャケット類を着用してもらいます。他クルーの救命具装備は義務付けませんが、クルーの責任のもと対応願います。

4. 年齢・女性ハンデ

フレンドリー種目では、漕手の中老年者および女性、初心者にはハンデタイムを与えます。申込書に年齢、性別、初心者かを明記ください。実行委でハンデタイムを算出します。メンバー変更は45分前までに手続き願います。虚偽の申請があった場合は失格とします。

ハンデは漕手の平均年齢により別紙ハンデ表を準用します。年齢は女性と初心者（漕歴6カ月未満または中学生以下）にはそれぞれ+20歳とし、平均年齢の少数点以下は切り捨てる。女性で初心者の場合は+40歳とする。平均年齢が79歳を超える場合は1歳ごとにハンデ表のカテゴリJのタイムを加算。ハンデタイムは5秒単位で四捨五入する。

5. レース方式

チャンピオン種目は1000m、フレンドリー種目は800m、エキシビション8+は900mで行います。一般的なレガッタは予選→敗者復活→準決勝→順位戦→決勝というトーナメントで行われますが、この大会は予選のタイム順で決勝・順位戦を行います。同一種目はできるだけ近い時間に設定しますが、風などの変化で若干の運・不運が生じる場合があります。ご了承ください。

フレンドリー種目はハンデ戦とします。予選タイム順に決勝・順位戦の組み合わせを決めますが、フレンドリー種目では時差スタートを採用します。クルー平均年齢から算出するハンデ（秒差）に従ってスタートするので、漕いでいるクルーにも観客にも、フィニッシュ直前では勝ち負けの状況がそのまま見えます。発艇員の「○レーン、アテンション、ゴー！」というコールを良く聞き、間違えないよう時差スタートしてください。

6. レース編成とメンバー変更

全ての参加クルーが予選→順位戦の2回出漕できます。種目ごとにレース日を固定し、同日中に予選タイム順に決勝と順位決定戦を行います。エントリーは1人1日1種目ですが、2日間の大会で1人2種目のエントリーが可能です。フレンドリー種目は参加しやすさを重視し、予選以後もコックスと半数以内の漕手のメンバー変更を認めます（補漕以外も可だが、今大会の傷害保険加入者に限る）。ハンデが変わる場合もあるので、必ず変更届用紙を本部に提出してください。

7. コースの注意

レーンは艇庫対岸（ホテル側）から1、2、3、4レーンとなります。スタート付近の4レーン側、ホテル前の1レーン側、フィニッシュの4レーン側は岸に近いので注意してください。スタート付近ではステッキボートより後方には入れません。1000mフィニッシュ後は直ちに艇止めし、ヨシ原に突っ込まないよう回避してください。練習時などに漁網の上を通らないよう、また大きくて硬い漁業ブイにぶつけないように注意してください。スタートラインは微調整しかできませんので、たとえば4+と1×ではレース距離が若干異なります。フィニッシュからベケレット方面水域は大会本部の管轄外のため、原則、侵入を禁止します。待機クルーの練習水域はコース内のみとします。次にスタートするクルーのみ0~200mの自己レーンで練習できます。次レース以外の0~300m進入に対しては、罰則を適用する場合がありますので注意願います。また、レース通過後の300m~800mは、レーン内をフィニッシュに向かっての短時間の練習が可能です。レーン横断は十分に注意のうえ速やかに行い、危険を感じたら大声を上げてください。

8. 競漕ルール

基本的に日本ローイング協会競漕規則に準拠しますが、一部ローカル運用をします。審判艇による追尾を最小限にしますので、警告等が聞こえにくい場合があります。警告の有無にかかわらず自らのレーンを厳守することが鉄則であり、レーン侵害や危険行為には除外などの罰則を適用します。ブレード、ユニフォームは出来る限りそろえ、チーム名は分かりやすく表示してください。決勝クルーの選手変更およびシート変更は事前に提出下さい。報道および大会結果記録を誤記されることがあります。

9. 配艇、出艇について

配艇は当日、配艇係に確認ください。出艇は「レーススケジュール」のページをご覧ください。使用した借艇・配艇を取り扱いミスで損傷させた場合には、修理代を請求します。船台（栈橋）は上流から1、2、3、4番。船台上に靴や衣類、ペットボトルを放置せず、速やかな出艇、帰艇を心がけましょう。

10. 駐車場など

マイカーは出来るだけ乗り合いでお願いします。満杯のときはお断りします。車上狙い（ドロボー）されないよう、貴重品は車内に放置せずしっかりロックをして下さい。トイレは研修センター艇庫内と2階にあります。お急ぎのときは商大・北大艇庫も使えます。女子更衣室は2階シャワー室をご利用下さい。

安全ガイドライン

- (1) 安全監視委員は会場周辺の天候に精通する者を含め、ローイング経験者、高校関係者で構成する。
- (2) 安全監視委員は安全監視委員会を構成し、選手の安全確保に万全を期すために天候の変化やコース状況などを判断し、危険な場合には競技の「中断」または「中止」を運営責任者に勧告する。この大会では以下を目安とする。
 - ①陸上観測で風速5m/秒を超えた時点から、30分ごとの定時観測から細かな常時観測に切り替えると同時に、これを全参加者にアナウンスし注意を促す。
 - ②同7m/秒を超えた時点で「中断」の判断を下し、出艇を見合わせ、発艇員に「スタート待て」を伝える。
 - ③レース待機および練習などで水上にあるクルーには最寄りの競技役員から「安全水域で一時待機」を指示する。
 - ④その後、15分間で風速が衰えなければ水上クルーの安全な引き返しを誘導する。
 - ⑤中断の間に運営責任者に対し「中止があり得るので日程、レース変更、代表選手の代替方法などを検討せよ」と勧告する。
 - ⑥風速10m/秒を超えた時点では、「中止」を勧告する。
 - ⑦運営責任者より「再開」の希望が出されたときは常時観測の動向および気象予報、水路監視者の意見を総合的に検討し判断を下す。
- (3) 安全監視委員会は上記(2)項の風速以下であっても、風向・波高・降雨・雷・低高温・濃霧・日没・漁船通航などのコース状況およびクルーの衝突や転覆、急病・怪我に目を配り、場合によっては「中断」「中止」の勧告を行う。
- (4) 安全監視委員会は(2)(3)項以外の大会運営についても安全上に問題ありと判断した場合は運営責任者に注意・進言する。

《大会参加中の傷害事故について》

本大会では参加中の事故に備え、提出された加入者名簿に基づき、参加選手用の傷害保険に加入しています。万一事故が発生した場合には、「大会本部」までご連絡ください。

■傷害保険の内容

- ・死亡・後遺障害 300万円
- ・入院保険金日額 3000円（入院限度日数 180日）

傷害保険は『急激かつ偶然な外来の事故によりケガをした場合に保険金が支払われます。ケガには有毒ガスまたは、有害物質による急性中毒を含み、日射病、熱中症は対象外です。』

【ご注意ください】

大会中の主催者関係者により撮影したビデオ・写真や大会結果などの著作物の一切の著作権、選手・観客その他関係者の肖像権など、及びその他此を使用する一切の権利は主催者である札幌ボート協会に属する。又、これ等の管理は当協会が運営指針に沿って被写体の許可なく利用できるものとする。